

2022年4月1日～2024年9月30日の間に 当院において病理解剖を受けられたご家族の方へ

「脊髄における神経変性の免疫組織化学的研究」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学病理学	講師	西村広健
研究分担者	川崎医科大学病理学	講師	松野岳志
	川崎医科大学病理学	教授	森谷卓也

1. 研究の概要

認知症を代表とした神経難病である神経変性疾患は、脳内の蛋白質が何らかの原因で変化することが病気の発症・進展に重要と考えられています。このことは、大脳ではよく研究されているのですが、大脳と同じ中枢神経系である脊髄においては、未だに詳細な検討がなされておらず、よく分かっていないことが多いです。大脳では、年を取るにつれ、脳の成分である蛋白質が変化し、異常な蛋白質に変化したものが蓄積していくことが知られていますが、脊髄では詳しく分かっていません。そこで、脊髄における神経変性について、亡くなられた患者さんから解剖させていただいた体の一部（神経系組織）を病理学的に検索し、蛋白質の異常発現などを顕微鏡でみて（免疫染色という方法です）、脊髄における神経変性の異常を研究して、詳しく調べていきたいと考えています。この研究が、神経変性疾患の診断・治療の進歩に寄与できればと考えています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2022年4月1日～2024年9月30日の間に川崎医科大学附属病院において、病理解剖を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2028年3月31日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において病理解剖を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに病理所見のデータを選び、脊髄の蛋白変性に関する分析を行い、詳しく調べます。

4) 使用する試料・情報の種類

情報：年齢、性別、家族歴、病歴、症状、治療歴、治療経過、等
試料：病理解剖で採取された神経組織等

5) 試料・情報の保存

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学病理学内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

ご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、希望される場合にのみ行います。ご家族等(父母(親権者)、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人)を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、対象者の試料・情報が研究に使用されることについて、ご了承いただけない場合には研究対象としないので、2027年5月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 病院病理部

氏名：西村広健

電話：086-462-1111 内線 44142 (平日：8時30分～16時00分)

E-mail：piko@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。